



Chapter1 ドラマ「バスケ少年の秘密」(8分)

ジュンゴとユウスケは、中学の同級生。幼馴染でずっと仲良くしてきた親友だ。ユウスケが転校することになったその直前、問い詰めるジュンゴに対し、好きな人を打ち明けたユウスケ。

それはサッカー部の男の子だった。思わず「お前ホモかよ！」と茶化したジュンゴに、ユウスケは「今言ったことは忘れてほしい」と足早に帰ってしまう。「ゲイってどういうこと？なんで今言ってきたの？なんでこれまで言えなかったんだろ？」

傷ついたユウスケの顔が頭から離れないジュンゴは、ユウスケがどんな思いで今までそのことを言えなかったのかを、考え始める…。

Chapter2 いろんな性を知る (7分)

- ・性の4要素の解説
- ・LGBTなどの言葉の解説
- ・当事者の語り

Chapter3 当事者インタビュー (15分)

- ・自分のセクシュアリティに気づいた時
- ・カミングアウトについて
- ・言葉カードで気になった言葉
- ・中学生へのメッセージ など

Chapter4 ワークショップ実践映像 (29分)

- ・中学校で実施したモデル授業の様子

ワークショップ プログラム

※50分×2コマの場合のプログラムです。

このワークショップでは以下の点をねらいとします。

- ・性の4要素について知り、LGBTなどの性的少数者(以下「LGBT」という。)が置かれている現状を通して、私たちの性のあり方はグラデーションで一人ひとり異なることを理解する。(知識的側面)
- ・「ことばカード」のワークショップを通じて、日頃何気なく飛び交っている言葉についての受け止め方にも一人ひとりちがいがいること、自分とは異なる意見があることに気づき、多様性を尊重するための視野を広げる。(価値的・態度的側面)
- ・受容や対等な関係を築くこと、差別や偏見について、ワークショップを通して見抜くスキルを高める。(技術的側面)

前半はドラマ映像や「ことばカード」を使っのディスカッション、後半は性の多様性に関する解説と当事者インタビュー映像をもとに、どんな言葉・どんな環境であれば性的少数者の人々は生きやすくなるかを考えていきます。

1 時間目

場面	時間	スライド	内容	留意点
導入				
安心・安全のために	5	1	この2コマの間のテーマとルールの提示 ・今日のテーマは性についてです。 ・以下の2点をルールとして確認します。 ①言いたくないことは言わなくてよい。 ②疲れたりしんどくなったら見学してもよい。	・生徒の中にも当事者がいることを前提として進めます。「当事者なのでは？」と周囲に悟られずに、場から抜けられる道をつくっておきましょう。 ・「身近に当事者がいるかもしれない」ということは生徒に伝えたいことではありますが、強調しすぎることはLGBT当事者生徒のストレスを高める可能性もあるので注意が必要です。
		2		
展開 1				
ドラマ鑑賞	10	3	DVDのチャプター1 ドラマ「バスケ少年の秘密」を見る	・もしもゲイという言葉や、LGBTの存在について「笑い」が起こるような空気があれば、その笑いは淡々と制止してください。容認すると、先生はLGBTが笑われることを容認しているというメッセージになってしまいます。それは教室にいるであろう当事者にとって非常に辛いことです。
展開 2				
グループ対話	10	4	ドラマを見て思ったことや感じたことをグループで話し合う 次の観点から話ができるとよいでしょう。 ・ユウスケはどうしてジュンゴに自分のことを打ち明けたのか。 ・ユウスケはどうして「誰にも言わないって約束して」と言ったのか。 ・印象に残ったところ。	<予想される意見> 「ジュンゴなら分かってくれと思ったから」 「ジュンゴは大事な友達だから引越す前に自分のことを打ち明けたかった」 「他の子には変な目で見られると思ったから」 「もう引越すし、引かれても、逃げられると思ったから」 「ジュンゴがしつこかったから」 → できるだけいろいろ意見を共有できるのがよいでしょう。 ・グループワーク中、各グループを回りながら、全体共有でどの班に、どの生徒に意見を出してもらおうとよさそうか、選んでおきましょう。
				5

展開 3				
ことばワーク	15	6	各グループで「ことばカード」ワーク ・私たちの日常にある「ことば」をカードにしたもの(スライド参照)を、伏せてみんなに均等に配り、起点になる人を決めてそこから一人ずつ順番に、自分のカードから1枚選んで面を向けて場に出してもらいます。 ・それぞれのカードについて、生徒たちに「事故が起きて誰か傷つくかもしれない赤信号」「ちょっと考えたほうがいい黄色信号」「大丈夫安全だ!の青信号」のどれにあてはまるかを考え、相談しながらシート(スライド参照)に配置していきます。なぜそう思ったかをできるだけ聞き合うよう促します。	・「やっつけ作業」にならないよう、全部終わらせなくていいことをあらかじめ伝えます。 ・あまり重苦しくなりすぎずに、テンポよく進めるほうが望ましい。(ただし、「そこに配置した理由」はできるだけ引き出し、言語化を促してください) ・この時ファシリテーターは、自分の意見は言わず、なるべく中立的な立場に徹します。ただし、意見が偏った際に、逆の側に振るようなことをあえて言うことは効果的です。 ・当事者の生徒にとって危険が高い発言は止めたり、逆の意見を引き出して中和するなどしてください。 (例)「だってそういう人たち、きもいやん」など ・ファシリテーターは、各グループをまわりながら、グループによって意見が分かれているカード(あるグループでは青だが、あるグループでは赤、など)がどれか、把握しておきましょう。
		7		
前半まとめ	5	5	ことばワークのカードのまとめ グループによって意見が分かっていたカード数枚について、「このカードが、赤だったグループ」「黄色だったグループ」「青だったグループ」と挙手をしてもらいます。 ・以下の3点を押さえましょう。 ①みんな感覚が違うため、自分が青だと思った言葉も、誰かにとっては赤かもしれない。 ②赤だな、黄色かも、と思った言葉が飛び交っている状況は、誰もが「自分は自分でいいんだ」とは思いにくい空気・雰囲気をつくってしまう。 ③普段使う言葉に、少し意識を向けてみることで、みんなにとって、もっと安心でもっと楽しい教室や学校をつくることことができる。	・「使ってはいけない言葉を教えられている」という印象にならないよう、また同じ言葉でも様々な受けとめ方があるということがわかるよう、グループ間の意見の違いを可視化して確認し合しましょう。 ・まとめは、なるべく、ファシリテーター自身の「I(アイ)メッセージ」で、押しつけがましくならないよう、伝えられるとよいでしょう。 ※I(アイ)メッセージ 「私」を主語にして、自分自身がどう感じているかという思いを語ること。

2 時間目

展開 4				
性の4要素	10	9	性の4要素についての解説 ・スライド(プリントアウトしても可)を使い、多様な性についての解説を行う。 ・ファシリテーターが性の4要素(生物学的な性、性自認、性的指向、性表現)について解説し、「LGBT」のL/G/B/Tについての説明を行うか、DVDのチャプター2「いろんな性を知る」を見せましょう。 ・生徒は、ワークシートBに空欄に書き込みながら、聞いてもよいでしょう。	・普通の人と、それ以外(LGBT)の人、という認識になるよりも、そもそも誰もが性の多様性の中にいるということを伝える観点から、シスジェンダー、ヘテロセクシュアルという言葉もぜひ取り扱ひましょう。 ・多数派を「普通」と呼びがちだが、普通は人によって違うこと、多数派にも名前がついていることを伝えられるとよいでしょう。
		10		11
展開 5				
当事者の声	15		DVDのチャプター3「当事者インタビュー」を見る もしくは ゲストにインタビューをする ・当事者としての気持ちを聞きます。 自分のセクシュアリティについて、ドラマにかかわっての中学生のときの体験、自分が困ったこと、「言葉カード」について感じたことなど	
展開 6				
グループ対話	10	14	もっとこうだったらいいね!を考える ・赤または黄信号になった「ことばカード」の中から3枚をピックアップし、グループで再度話し合う。 ・この言葉をどう変えたら、ユウスケやLGBTの人たちがしんどくならないか。 ・学級にもいるかもしれない性的マイノリティの友だちが、どのようにすればもっと快適に学校生活を送ることができるか。	・意見が出ず、場が硬直している場合は、いくつかのカードを取り上げ、ファシリテーター個人の意見として、「例えばこうすれば青になるんじゃない?」といった例示を行なうのもよいでしょう。
全体共有	5	15	グループで出た意見を全体共有 ・何人かの生徒に、グループで出た意見や自分の考えを発表してもらいましょう。	
展開 7				
振り返り	5		振り返り共有 ・学習を通して感じたこと、考えたこと、これからしていきたいことを振り返りシートなどに書きます。 ・時間があればグループや全体で共有してもよいでしょう。	
相談先などを伝える	5		相談先や、もっと知りたい場合の情報源を伝える ・ワークシートBの「相談先/もっと知りたい場合」に触れ、必要に応じてこれらの資源や情報源にアクセスできることを伝えます。	・当事者や、当事者にカミングアウトを受けた生徒が、相談できたり、情報を探したりできるように資源や情報源を提供しましょう。 ・だれがLGBT当事者か、ではなく、私たち一人ひとりがちがいを尊重できる人になるための授業であることに言及します。 ・教員自身が多様な性について学んで感じていることをI(アイ)メッセージで語るのもよいでしょう。